

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 講義科目について、ゲストスピーカーによる講義、あるいは現場見学、または学生参加・体験型の授業を1回は実施する。	→実績数。	A	A			
2. 3学科とも、学科の目標に合致した実習教育とインターンシップを提供する。	→各学科による報告書の作成。	-	C			
3. 講義、演習、実習、インターンシップ、卒業研究を連動させた授業が提供されているか、学生、および教職員による評価を実施する。	→報告書の作成。	-	-			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 講義、演習、実習・インターンシップを連動させた授業形態の実施、オリエンテーション・履修心得・アカデミックアドバイザーを通じての学習指導の徹底化、講義科目におけるコメントカードの利用や学生同士のディスカッションの展開などを通じて、教育目標の達成に向けた授業方法や学習指導に努めている。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 前年度のシラバスを見直したうえで、全ての授業についてシラバスを作成している。それに基づいた授業が展開されているかどうか、学生の授業評価を通じて評価を得ている。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 各授業の成績評価方法・評価基準はシラバスで明示し、それに基づいた成績評価を行なっている。単位認定は科目毎に個別に行なっている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学生による授業評価によって検証を行なっている。FD委員会や実践教育支援室による研修会を実施し、教育方法の改善に努めている。また、複数教員で同一科目を担当する場合、授業方法・教育内容、学生への成果について、定期的に情報交換やスーパービジョンを行ない、改善に結びつけている。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	実習・言語科目を除く296科目において、ゲストスピーカーを延べ59名招聘した授業を行なった (昨年度は52名)。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	講義科目を中心にゲストスピーカーを招聘した授業を、今後も実施していく。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	卒業生を輩出していないため、2009年度に設定した目標3について、最終評価はできていない。しかし、授業のコメントカードや授業評価アンケートにより、講義で教られた知識が、演習において具体的事例や場面に即して理解・実践されていると考える。また、実習報告会における学生の実習成果報告からも、授業で獲得し演習で深められた知識や技術が、実践現場で応用されていることがうかがえる。これらの成果が、卒業研究に結びつけられるか、来年度、改めて評価したい。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○ゲストスピーカー招聘の工夫は評価できます。さらに一步を進めて、その教育上の効果について、検証していくことが望まれます。
○学部として未完成であるということで、進捗評価がなされていない項目がありますが、年次ごとに少しずつでも検証をしていきながら完成年次を迎える工夫が必要ではないでしょうか。これ以外の中項目も同様です。

【学内委員】

○ゲストスピーカーによる講義について、目標を達成していることは評価できます。
○目標1については順調に進展をみせており、評価されます。目標2についても今後の進展が、目標3については最終評価が保留されていますが、良い結果が期待されています。ただ、2013年3月の1期卒業待ちという姿勢ではなく、早期のデータ収集の準備や体制作り等が期待されます。
○要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明を加えられることが求められます。
○小項目6.3.2において授業評価の結果がどうであったのか記述する必要があるでしょう。
○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のこととわかる必要があります。そのためにも、小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.3.2 (説明)

授業目的、目標、内容、方法、授業計画、成績評価方法を示した大学所定のシラバス書式を使い、シラバスを作成しホームページ上で公開している。また、各授業の必要に応じてより詳細なシラバスを作成し第1回目の授業で学生に配布・説明している。学期末の学生の授業評価によると、学部全体として概ねシラバスに基づいた授業が展開されていると評価できる。評価が低いものについては、次年度のシラバス作成に生かすよう努めている。

★

○小項目6.3.3 (説明)

編入学生の単位認定について、大学設置基準に定められた基準に基づいて策定、学部内規に認定方針、認定単位数や認定方法を明記している。この学部内規に従って個々の編入生の単位認定を行なっている。